

題目

『急性精神病状態を呈して救急搬送された 24 歳女性』

喜界徳洲会病院 初期研修医

宇治徳洲会病院 2 年次研修医 海透優太

【序文】

喜界徳洲会病院での 2 カ月の初期研修中に急性精神病状態の 24 歳女性が救急搬送された 1 例を経験した。その時の初期対応について検討し、離島における精神科救急に関して問題提起する。

【症例】

自ら 119 番をし、救急搬送された 24 歳女性。搬送当初は身元不明であり、支離滅裂な発言を繰り返すのみで当院スタッフとは全くコミュニケーションがとれない状況であった。彼女の発言の中には被注視感、被害妄想、世界没落体験が多数含まれており、一見して急性精神病状態と判断できる状態であった。また非常に落ち着きなく部屋の中を動き回ったり、部屋から飛び出そうとしていたため、他害の恐れはないが自傷の恐れありと判断した。急性精神病状態と判断し、リスパダール 3mg 内服とレネス 5mg 筋注を使用し患者の精神状態はやや落ち着いたが、会話の整合性は保てず、他人格に命令されて動かされているような“させられ体験”様の発言を繰り返していた。搬送当日に患者本人が保護を求めて一度警察署を訪れていたため身元が判明し、ご家族に連絡を取る事ができた。現在まで治療未介入とのことであったため、今後も再度同様の症状が出現することは自明であり、入院加療が必要と判断し奄美病院に相談。翌日の外来受診なら対応可能との返事をいただいたため、一晚を喜界島で過ごすこととなったが、当院には当患者が安全に入院できる施設がないので、喜界警察に相談し保護房をお借りして隔離することとした。翌日の定期便にて医師同伴で奄美病院に搬送。精神保健指定医の診察の結果、急性精神病状態及び統合失調症の疑いとして医療保護入院の運びとなった。

【問題提起】

1. 奄美諸島の各病院における精神科救急の実情
2. 精神保健指定医の診察が必要と判断した場合の緊急搬送について
3. 隔離施設の有無
4. 各種機関(警察など)との連携について(例えば、24 条通報について)

本症例を元に、奄美ブロック研修病院における精神科救急のみならず、奄美諸島すべての精神科救急の実情とその対応に一石を投じたいと思う。